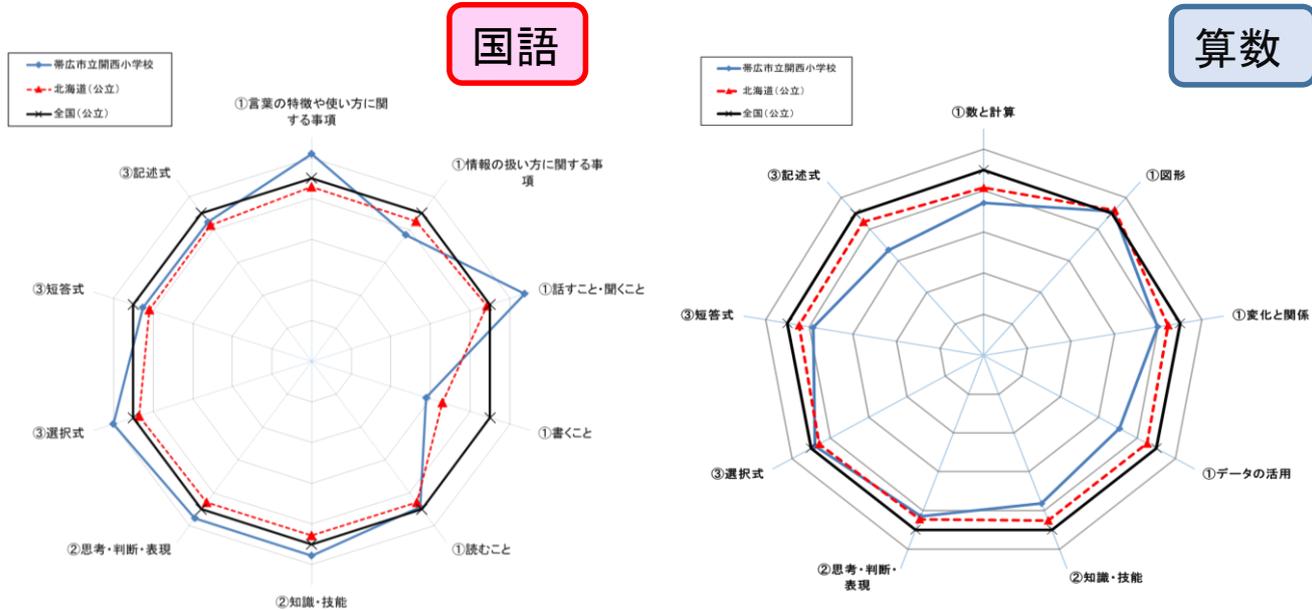


令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について（4月18日実施）

令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。なお、本調査により測定できるのは子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

※ 全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。



国語の平均正答率においては、「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」「知識・技能」「思考・判断・表現」の領域が全道・全国の平均正答率を上回りました。反面、「情報の扱い方」「書くこと」において、全道・全国の平均正答率を下回り、課題となりました。また、「記述式」の問題にやや課題がみられました。

算数の平均正答率においては、「図形」の領域で全道・全国平均を上回ったものの、その他の領域については全道・全国平均を下回る結果となりました。特に「数と計算」「データの活用」「知識・技能」「記述式」の領域が、課題となっています。

児童質問紙より

「朝食を毎日食べている」「友達関係に満足している」「自分で計画を立てて勉強をしている」「自分の考えを深めたり、広げたりしている」「国語の勉強が好き、大切である」の項目において、肯定的回答が全道・全国より高い結果となりました。反面、「自分には良いところがあると思う」「新聞を読んでいる」「授業以外での、普段の勉強時間が1時間以上」と回答した児童の割合が全道・全国より低い結果となり、課題となっています。

今後のとりくみ

- 正答率の低かった問題については、解き直しや関連した問題への取組を進め、確実な定着につなげていきます。
- 校内研究との関連を図るなど組織的に授業改善につながるような取組を進めています。
- タブレット端末を活用して、考えたことを順序立てて記述したり、お互いの考えを共有したりしながら課題解決を図ることを大切に、学習内容がしっかりと定着するよう授業改善に努めていきます。
- 家庭学習の習慣化や充実など、家庭と連携した取組を図っていますが、更に充実させていきます。
- 読書活動への啓発や日々のニュースへの関心を高めるなど、社会性を育む基礎となる指導や活動を日常的に取り入れていきます。
- 書く力を高めるため、既習事項の活用問題や論理的な思考を育む問題において、説明・記述する学習場面を、授業の中で意図的に取り入れるような授業改善に努めていきます。